

平成21年5月29日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2005 ～ 2008
課題番号：17202008
研究課題名（和文） スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム
研究課題名（英文） The East-West Paradigm in the Slavic-Eurasian Culture: Dialogue and Confrontation
研究代表者
望月 哲男（MOCHIZUKI TETSUO）
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号：90166330

研究成果の概要：ロシア、中央アジア、コーカサス地域など旧ソ連圏スラブ・ユーラシアの文化的アイデンティティの問題を、東西文化の対話と対抗という位相で性格づけるため、フィールドワークと文献研究の手法を併用して研究を行った。その結果、この地域の文化意識のダイナミズム、帝国イメージやオリエンタリズム現象の独自性、複数の社会統合イデオロギー間の相互関係、国家の空間イメージの重要性、歴史伝統と現代の表現文化との複雑な関係などに関して、豊かな認識を得ることが出来た。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2006年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2007年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
年度			
総計	20,900,000	6,270,000	27,170,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：旧ソ連、東西文化、スラブ、ユーラシア、比較文化

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 旧ソ連圏のスラブ・ユーラシアは、地理学的かつ文明史的な位置によって、古くから東西文化圏の狭間であることを意識し、ヨーロッパ的なものと東洋的なものへの関係性において自己の文化を形成してきた。
- (2) 近代におけるロシア帝国への統合と20世紀の社会主義ソ連形成の歴史は、この地域の文化構造を複雑化し、言語、生活習慣、政治イデオロギーなどを単位とする多元的アイデンティティを形成した。
- (3) ソ連邦の崩壊とヨーロッパ世界の統合、

文明のグローバル化の中で、現在この地域の諸国は新たな文化的アイデンティティの形成を迫られているが、その際、宗教的世界観や生活文化の諸側面において、新たに東西文化の対話と対抗の問題が鮮明化している。

- (4) ユーラシア諸国の将来における平和的共存の可能性を考える上で、文化的自己意識の問題はきわめて重要な要因であり、東西文化の対話と対抗という本研究の切り口は、この地域の問題を一般人類的な問題の俎上に載せるのに有効と思われる。

## 2. 研究の目的

- (1) 旧ソ連圏のスラブ・ユーラシアにおける文化的自己意識のあり方を、東西文化の対話と対抗という位相で分析する。
- (2) 対象を「ロシア・東スラブ」、「コーカサス・中央アジア」、「旧ソ連圏全体」という枠組みで捉え、それぞれについて文化史的に特徴的な現象を抽出して研究する。
- (3) 研究のディシプリンには、言語学、文学、芸術学、思想史、歴史学、文化人類学、政治学が含まれる。
- (4) 特に注目する問題点：
  - ① 宗教的・民族的・国家的アイデンティティの相関。
  - ② 文化思想における原理主義と功利主義の対立。
  - ③ 伝統文化の役割と今日的再解釈。
  - ④ ロシア帝国・社会主義ソ連の文化遺産の現代的意味。
  - ⑤ ヨーロッパ文化、アメリカニズム、東洋文化への親和と反発。
  - ⑥ 文化の大衆化、情報メディアの発達、ポストモダニズム思想の流行が文化的自己意識に及ぼす影響。

## 3. 研究の方法

- (1) 地域研究的手法、歴史学的手法、比較文化学的手法を併用し、各地域文化の個別的・歴史的特徴を検討すると同時に、当該地域文化全般の類型学的特徴を捉える。
- (2) 以下の枠組みに従って研究を進める。
  - 第1テーマ**：旧ソ連文化圏における東西文化のパラダイム  
(東西文化論の歴史・文化学的背景／民族文化と国際文化の関係論／帝国の論理と東西文化／旧ソ連言語文化圏の変容／文化政策と地域統合)
  - 第2テーマ**：ロシア・東スラブにおける東西文化のパラダイム  
(ロシア・スラブ語文化の世界性／スラブ・アイデンティティの東西文化論的意味／宗教哲学における東西文化のパラダイム／文芸における東西文化のパラダイム／スラブ文化圏における異民族のアイデンティティ)
  - 第3テーマ**：中央アジア・コーカサスにおける東西文化のパラダイム  
(中央アジアにおけるオリエンタリズムとオクシデンタリズム／民族主義の形成と東西文化の関係性／紛争と文化の相互理解／伝統文芸における東西文化の自己意識)

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

- ① 文化類型の動的な理解：スラブ・ユーラシアはスラブ系とアジア系を主体としてきわめて多くの民族が共存する空間であり、

各民族・地域の「固有文化」と西欧的「普遍文明」との対抗としてイメージされる必然性を持っている。ただし「固有文化」の概念はしばしば近代の構築物でもあり、その内容の固定的解釈は矛盾を引き起こす。本研究は東西文化の対話・対抗という図式を実体概念と想定するよりも、むしろそこから各文化の自己意識が生産されるパラダイムと捉えることにより、この地域のアイデンティティの動態をより正確に把握することが可能となった。

- ② 特異な帝国・二次的オリエンタリズム：旧ソ連圏の近代におけるアイデンティティにとっての帝国という概念の重要性が明らかになった。ただし中央アジアやコーカサス地域の研究が教えるように(宇山論文30など)そこに現れてくるのは「個別主義の帝国」という特異な形態であった。また同じくオリエンタリズム論に関しても、西欧的なものへの自己同一化の結果として自文化の内部や外部に東洋的なものが発見されるという、受動的なオリエンタリズムの作用が析出された。
  - ③ 社会統合イデオロギーの二重作用：ポスト・ソ連の思想的空白を埋める西欧型民主主義、資本主義原理、伝統的宗教、民族主義、帝国へのノスタルジーといったあい矛盾する理念は、必ずしも原理的なレベルでの対立を起こしているわけではなく、相互補完的な社会統合の理念としても機能している。
  - ④ 空間認識・視覚表象の重要性：下記の成果”*Beyond the Empire...*”の諸論が示すように、地理・空間的認識とその視覚表象が、この地域のアイデンティティに重要な意味を持っている。
  - ⑤ 現代表現文化の特性：現代文芸は帝国のイメージや伝統文化の諸要素をパロディ化・相対化しながら、同時に再生産し、活性化するという、皮肉な作用をしている。
- (2) 国内外における位置づけとインパクト：旧ソ連圏ユーラシア諸国の文化的アイデンティティの問題を東西文化論のコンテクストで研究する作業とその成果はきわめて時宜を得たもので、この地域にかかわる国際学界との連携の機会も多く、各分野の学会で本研究の成果の一部が発表されてきた。本研究の一環として行った国際シンポジウム「帝国を越えて：ユーラシア文化のコンテクストにおけるロシアのイメージ」(2006年12月、北大)は、ユーラシアのアイデンティティにおける空間感覚、景観の視覚表象、境界の意識、帝国のイメージなどの要素の重要性を具体的に解明し、この地域における自己と他者の表象、オリエンタリズム、ポストコロニアリズムの独自性を割り出すうえで重要な共同作業となった。国外からの参加者にはクリストフ

アー・イーリー、ボリス・ガスパーロフ、エヴゲーニー・フォブレンコ、カーチャ・ホカンソン、マーク・バッシンなどの権威が含まれ、成果集 Tetsuo Mochizuki (ed.), *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC: Hokkaido Univ., 2008) p. 467 は、ユーラシア文化研究に対する日本の貢献として国内外で好意的な反響を呼び、ロシア語圏、英語圏でともに読者を得ている。このほかに計 6 回行われた公開研究報告会や合宿形式の研修会には、若手研究者も多く参加し、次世代研究者への刺激としても機能した。

- (3) 今後の展望：東西文化の対抗パラダイムを基礎にしたスラブ・ユーラシア文化研究は、わが国とユーラシアの将来の関係を考える上でも重要であり、今後はユーラシア諸地域の文化比較という手法も交えながら継続してゆく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 47 件)

- ① 宇山智彦 「中央アジアとコーカサス：近くて遠い隣人？」 前田弘毅 編『多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて』(北大出版会、2009) 31-58, 査読有
- ② 中村唯史 「特権的トポスのはじまり：コーカサス表象の原型と「他者の声」について」 前田弘毅 編『多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて』(北大出版会、2009) 155-183, 査読有
- ③ Tetsuo Mochizuki, Shame and Idea: Dostoevsky's «A Raw Youth», *Sub Specie Tolerantiae: Памяти В.А. Туниманова (St. Petersburg, 2008)* 234-256, 査読無
- ④ 望月哲男 「ロシアの空間イメージによせて」 松里公孝 編『講座ユーラシア学3：ユーラシア——帝国の大陸』(講談社、2008) 139-176, 査読無
- ⑤ Тэцуо Могидзуки / Каё Фукума, Сколько картин вмещает «Роман»? Владимир Сорокин и русский пейзаж, Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 423-447, 査読無
- ⑥ Kimitaka Matsuzato, From Belligerent to Multi-ethnic Democracy: Domestic Politics in Unrecognized States after the Ceasefires, *Eurasian Review* Vol.1, 2008, 95-119, 査読有
- ⑦ Keiko Mitani, From Russia with Love: Verbal Representation of Russia in Serbian Society, Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in*

*the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 353-372, 査読無

- ⑧ 貝澤 哉 「革命前ロシアの民衆読書教育と国民意識形成——1870年代から20世紀初頭」 望月哲男 編『文化研究と越境：19世紀ロシアを中心に』(SRC, 2008) 1-19 査読無
- ⑨ Хадзимэ Каидзава, Распространение чтения художественной литературы среди народа и формирование национальной идентичности в России, Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 189-213, 査読無
- ⑩ Кадзухиса Иватомо, О формировании образа России в романе Виктора Пелевина "Священная книга оборотня", Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 409-422, 査読無
- ⑪ Ваkana KOHO, Отношения к миру в искусстве русско-еврейских нонконформистов, Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 93-109, 査読無
- ⑫ Тадаси Накамура, Литература и границы: Кавказ в русской литературе. Осип Мандельштам и Андрей Битов, Tetsuo Mochizuki ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008) 255-277, 査読無
- ⑬ 鴻野わか菜 「非公認芸術と絵本——イリヤ・カバコフ『世界図鑑』『ユーラシア研究39』(2008) 38-43, 査読無
- ⑭ 宇山智彦 「地域認識の方法：オリエンタリズム論を超えて」 宇山智彦 編『講座スラブ・ユーラシア学2：地域認識論：多民族空間の構造と表象』(講談社、2008) 11-36, 査読無
- ⑮ 前田弘毅 「歴史の中のコーカサス「中域圏」：革新される自己意識と閉ざされる自己意識」 家田修 編『講座スラブ・ユーラシア学1：開かれた地域研究へ——中域圏と地球化』(講談社、2008) 169-193, 査読無
- ⑯ 中村唯史 「帝国と詩人：「ソ連多民族文化」とダゲスタンのアヴェール語作家ラズル・ガムザトフ」 松里公孝 編『講座スラブ・ユーラシア学3：ユーラシア——帝国の大陸』(講談社、2008) 106-136, 査読無
- ⑰ 坂井弘紀 「カラカルバクの知識人ダウカラエフについて」『ポスト社会主義人類学の射程：国立民族学博物館調査報告78』(2008) 289-307, 査読有
- ⑱ 望月哲男 「過去と現在：ペテルブルグ

- 文学のレトリック」望月哲男編『創像都市ペテルブルグ—歴史・科学・文化』(北大出版会、2007)241-266,査読無
- ①9 Kimitaka Matsuzato, Muslim Leaders in Russia's Volga-Urals: Self-Perceptions and Relationship with Regional Authorities, *Europe-Asia Studies* Vol. 59, No. 5, 2007, 777-803, 査読有
- ②0 三谷恵子「ペテルブルグの言語学—二十世紀言語学への貢献」望月哲男編『創像都市ペテルブルグ—歴史・科学・文化』(北大出版会、2007) 129-152, 査読無
- ②1 植岡求美「ナルキッソスの水に映る街(劇場都市ペテルブルグ)」望月哲男編『創像都市ペテルブルグ—歴史・科学・文化』(北大出版会、2007) 211-240, 査読無
- ②2 沼野充義「宇宙旅行の詩学—ソ連SFと政治イデオロギー」『文学』8-4 (岩波書店、2007) 64-79, 査読無
- ②3 貝澤 哉「パーヴェル・フロレンスキイの造形芸術論における「東」と「西」—表象、身体、人格の視点から」望月哲男編『スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗 I』(SRC, 2007) 44-71, 査読無
- ②4 鴻野わか菜「ロシア映画の転換期—ソ連崩壊・戦争・民族」長田謙一編『戦争と表象／美術 20世紀以後』(美学出版、2007) 341-359, 査読無
- ②5 UYAMA Tomohiko, A Particularist Empire: The Russian Policies of Christianization and Military Conscriptation in Central Asia, UYAMA Tomohiko, ed., *Empire, Islam, and politics in Central Eurasia* (SRC, 2007) 23-63, 査読無
- ②6 坂井弘紀「死から逃れようとする賢者—テュルク世界の伝説的人物コルクトについて」永澤峻編『死と来世の神話学』(言叢社、2007) 279-300, 査読無
- ②7 松里公孝「ソ連崩壊後のスラブ・ユーラシア世界とロシア帝国論の隆盛」山下範久編『帝国論』(講談社、2006) 145-165, 査読無
- ②8 植岡求美「都市を読む／都市になる サンクト・ペテルブルグはいかにつくられるか」『記憶する都市』(かもがわ出版、2006) 166-175, 査読無
- ②9 貝澤 哉「19世紀後半から20世紀初頭のロシアにおける文学教育と文学の国民化：ギムナジアにおける文学教育カリキュラムをめぐって」『スラヴ研究 53』(2006) 61-91, 査読有
- ③0 宇山智彦「「個別主義の帝国」ロシアの中央アジア政策：正教化と兵役の問題を中心に」『スラヴ研究 53』(2006) 27-59, 査読有
- ③1 中村唯史「原初への遡行、他者との出会い：20世紀ロシア文学のカフカース表象を考える」木村崇ほか編『カフカース：二つの文明が交差する境界』(彩流社、2006) 311-342, 査読無
- ③2 前田弘毅「忘れられた歴史と二つの系図が交差するところ—アフガニスタンのグルジア人—」木村崇ほか編『カフカース：二つの文明が交差する境界』(彩流社、2006) 57-80, 査読無
- ③3 望月哲男「19世紀ロシア文学におけるイェズス会のイメージ：『カラマーゾフの兄弟』読解へのステップ」『19世紀ロシア文学という現在』(SRC, 2006) 33-52, 査読無
- ③4 三谷恵子「Bila jednom jedna zemlja..: 旧ユーゴ各地のメディア、言語、そしてアイデンティティ—」沼野充義(編書)『ポスト共産主義時代のクロノトポス』(東大文学部、2006) 55-73, 査読無
- ③5 杉浦秀一「ロシア・プラトニズムとウラジーミル・ソロヴィヨフ」根村亮編『プラトンとロシア』(SRC, 2005) 1-15, 査読無
- ③6 望月哲男「ドストエフスキーの中のプラトン」『プラトンとロシア』(SRC, 2005) 16-33, 査読無
- ③7 福間加容・望月哲男「ソローキンと絵画：小説『ロマン』と19世紀ロシア美術」望月哲男編『現代文芸研究のフロンティア VII』(SRC, 2005) 41-68, 査読無
- ③8 松里公孝「地域研究史学とロシア帝国への空間的アプローチ：19世紀の大オレンブルクにおける行政区画改革」『ロシア史研究 64』(2005) 38-49, 査読有
- ③9 Kimitaka Matsuzato & Magomed-Rasul Ibragimov, "Islamic Politics at the Subregional Level of Dagestan: Tariqa Brotherhoods, Ethnicities, Localism and the Spiritual Board," *Europe-Asia Studies*, Vol. 57, No. 5 (2005) 753-779, 査読有
- ④0 植岡公美「二十世紀とロシア演劇—アヴァンギャルドと普遍性への夢—」『近代』96号(2005) 183-196, 査読無
- ④1 植岡公美「ロシア演劇と『酸素』」『ユーラシア研究』33号(2005) 27-31, 査読無
- ④2 貝澤 哉「パーヴェル・フロレンスキイのプラトン論」『プラトンとロシア』(北大スラブ研、2005) 75-96, 査読無
- ④3 鴻野わか菜「グリーシャ・ブルスキ—「不完了体過去」の芸術」『窓』133号(2005) 30-33, 査読無
- ④4 岩本和久「掘り起こしから回顧へ—最近のウリツカヤの創作をめぐって」『現代ロシア文学と麻薬』望月哲男編『現代文芸研究のフロンティア VII』(SRC, 2005) 184-190, 191-196, 査読無
- ④5 岩本和久「ゾーシチェンコと精神分析」『ロシア・東欧研究』33号(2005) 59-68, 査読有
- ④6 中村唯史「文学の王国が失われた後で：ソ連崩壊後のロシア文学」沼野充義(編書)

『ポスト共産主義時代のクロノトポス』  
(東大文学部、2006) 23-35, 査読無

- ④前田弘毅「国境と民族—コーカサスの歴史から考える」『しゃりばり』283号(2005) 40-45, 査読無

[学会発表] (計 17 件)

- ① Uyama Tomohiko, The Roles of Small Regions in Intercultural Relations and Conflicts: From the Bokey Horde to Abkhazia, *International Seminar "Eurasian Perspectives: In Search of Alternatives"*, コルカタ (インド), 2009年2月4日
- ② Tetsuo Mochizuki, Literature as Memory: Vladimir Sorokin and the Visual Memory of Russia, *The Forms and Methods for the Organization of Memories in the Traditional and Contemporary Cultures*, European University, St.-Petersburg, November 7, 2008
- ③ Kimitaka Matsuzato, Orthodox Churches and Trans-border Politics in the Black Sea Rims, *West Coast Seminar*, Glasgow University, June 19, 2008
- ④ Kimitaka Matsuzato, The Emerging Border Regions and Russia's 'Near Abroad' Policy, *the Second Annual CRCEES Research Forum*, University of Nottingham, June 17-18, 2008
- ⑤ MAEDA Hirotake, Identity in Aleksandre Orbeliani: Georgian Nationalism at the Earlier Stage and the Reality, *Georgia: The Making of a National Culture*, The University of Michigan, Ann Arbor, May 16, 2008
- ⑥ 中村唯史, Вид Кавказа: с точки зрения русской литературы, *In search of the Caucasian Culture: Seeking New Perspectives through Dialogues between Philologists and Historians*, Kyoto University, January 30, 2008
- ⑦ Uyama Tomohiko, Reconsidering the Interactions between the Tsarist Administration and Central Eurasian Intellectuals: Is the Orientalism Theory Viable? *Central Asian Studies: History, Politics and Society*, 筑波大学・大学会館, December 15, 2007
- ⑧ MAEDA Hirotake, From 'Oriental' to 'Russian': Lives of One Armenian Noble Family in Tbilisi, *American Association for the Advancement of Slavic Studies*, Marriott New Orleans, USA, November 15, 2007
- ⑨ Uyama Tomohiko, Was There an Islamic Alternative? The Place of Islam in the Kazakh National Movement at the Beginning of the Twentieth Century, *International Conference on Islamic*

*Civilization in Central Asia*, Astana, Kazakhstan, November 5, 2007

- ⑩ 沼野充義, Utopicheskii voobrazhenie russkoi literatury, *New Understanding of Russian Literature: History, Memory, Perspective*, ウォンジュ (韓国) 土地記念館, 2007年10月19日
- ⑪ 中村唯史「ソヴィエト連邦におけるコーカサス諸民族文学の位相」国際文化交流基金異文化講座「文明の十字路・コーカサスの諸相」ジャパンファウンデーション国際会議場、東京2007年7月30日
- ⑫ Keiko Mitani, From Russia with Love: Verbal Representation of Russia in Serbian Society, *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 15, 2006.
- ⑬ Вакана КОНО, Отношения к миру в искусстве русско-еврейских нонконформистов, *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 14, 2006.
- ⑭ Хадзимэ Каидзава, Распространение чтения художественной литературы среди народа и формирование национальной идентичности в России, *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 14, 2006.
- ⑮ Тадаси Накамура, Литература и границы: Кавказ в русской литературе. Осип Манделъштам и Андрей Битов, *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 14, 2006.
- ⑯ Тэцуо Мотидзуки / Каё Фукума, Сколько картин вмещает «Роман»? Владимир Сорокин и русский пейзаж, *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 13, 2006.
- ⑰ Кадзухиса Ивамото, О формировании образа России в романе Виктора Пелевина "Священная книга оборотня", *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Hokkaido Univ., December 13, 2006.

[図書] (計 22 件)

- ① 前田弘毅 (編著)『多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて』(北大出版会、2009) p. 221
- ② 望月哲男・高橋沙奈美 (編)『共産圏の日常世界』(SRC, 2008) p. 156

[http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicctn/slavic\\_eurasia\\_papers/no1/contents.html](http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicctn/slavic_eurasia_papers/no1/contents.html)

- ③ Tetsuo Mochizuki (ed.), *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (SRC, 2008)p.467

[http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no17\\_ses/contents.html](http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no17_ses/contents.html)

- ④ 望月哲男編『文化研究と越境：19世紀ロシアを中心に』（SRC,2008） p.179

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no23/contents.html>

- ⑤ 亀山郁夫『悲劇のロシア：ドストエフスキーからショスタコーヴィチへ』（NHK出版, 2008） p. 181

- ⑥ 松里公孝編『講座ユーラシア学 3：ユーラシア——帝国の大陸』（講談社、2008） p. 334

- ⑦ 貝澤 哉『引き裂かれた祝祭：バフチン・ナボコフ・ロシア文化』（論創社、2008） p.307

- ⑧ 岩本和久『情報誌の中のロシア』（東洋書店、2008）p.63

- ⑨ 宇山智彦編『講座スラブ・ユーラシア学 2：地域認識論：多民族空間の構造と表象』（講談社、2008） p. 322

- ⑩ 望月哲男編『スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗 I』（SRC,2007） p.85

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no21/contents.html>

- ⑪ 望月哲男編『創像都市ペテルブルグ—歴史・科学・文化』（北大出版会、2007） p. 282

- ⑫ 亀山郁夫『ドストエフスキー 謎とちから』（文芸春秋、2007） p. 262

- ⑬ Kimitaka Matsuzato, ed., *Imperiology: From Empirical Knowledge to Discussing the Russian Empire* (SRC, 2007) p.273.

- ⑭ 岩本和久『トラウマの果ての声—新世紀のロシア文学』（群像社、2007） p. 227

- ⑮ UYAMA Tomohiko (eds.), *Empire, Islam, and politics in Central Eurasia* (SRC, 2007) p.385

- ⑯ 沼野充義（柴田元幸・藤井省三・四方田犬彦と共編）『世界は村上春樹をどう読むか』（文芸春秋社、2006） p. 315

- ⑰ IEDA Osamu and UYAMA Tomohiko (eds.), *Reconstruction and Interaction of Slavic Eurasia and Its Neighboring Worlds* (SRC, 2006) p.378

- ⑱ 北川誠一・前田弘毅・廣瀬陽子・吉村貴之編『ユーカサスを知るための60章』（明石書店、2006） p. 336

- ⑲ 亀山郁夫『大審問官スターリン』（小学館、2006） p. 310

- ⑳ 沼野充義、沼野恭子『世界の食文化 ロシア』（農文協、2006） p.306

- ㉑ 望月哲男『ドストエフスキー・カフェ：現代ロシアの文学事情』（東洋書店、2005）査読無 p.63

- ㉒ 望月哲男（編）『現代文芸研究のフロンティア VII』（SRC,2005） p.196

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no9/contents.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

望月 哲男 (Mochizuki Tetsuo)

北海道大学・スラブ研究センター・教授  
研究者番号：90166330

### (2) 研究分担者

亀山郁夫 (KAMEYAMA IKUO)

東京外国語大学・学長

研究者番号：00122359

松里公孝 (MATSUZATO KIMITAKA)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：20240640

三谷恵子 (MITANI KEIKO)

京都大学大学院・人間環境学研究所・教授

研究者番号：10229726

楯岡求美 (TATEOKA KUMI)

神戸大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：60324894

沼野充義 (NUMANO MITSUYOSHI)

東京大学大学院・人文社会系研究科・教授

研究者番号：40180690

貝澤哉 (KAIZAWA HAJIME)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：30247267

杉浦秀一 (SUGIURA SHUICHI)

北海道大学大学院・国際広報メディア・観

光学院・教授

研究者番号：50196713

岩本和久 (IWAMOTO KAZUHISA)

稚内北星学園大学・情報メディア学部・

教授

研究者番号：40289715

鴻野わか菜 (KOUNO WAKANA)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：50359593

宇山智彦 (Uyama Tomohiko)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：40281852

前田弘毅 (Maeda Hirotake)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：90374701

中村唯史 (NAKAMURA TADASHI)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：20250962

坂井弘紀 (SAKAI HIROKI)

和光大学・表現学部・講師

研究者番号：20366559

### (3) 連携研究者

なし